

「ヨンヤ」

「ヤア珍らしや、汝、黒煙五平太ならずや」

「我名を知つたる其方は」

「知つたも無理か、三ヶ年以前、我父、蒸氣登之助を討て立退き」

「あまつさへ、淀川丸の短刀奪ひ取つて立退し曲者」

「斯言ふ某は、彼岸中日頃好」

「桃山群集酒盛」

「此處で逢ふたは、優曇華の」

「花咲く春の心地して」

「不俱戴天の父の仇」

「辨才天の母の仇」

「喜いさん、餘計な事を言ひな、率、尋常に」

「勝負、勝負」

「勝負などとは片腹痛い、汝等寄つたら、返り討だ」

「何を、小癪な」

長い刀を引抜きました、今まで何事が始まつた知らんと、黒山のように集つて居た人が、刀を抜くと、敵討やと言ふなり、蜘蛛の子を散らす如く逃げ出しました。

「オイ早う逃げ、それ辨當箱を踏み潰した」

「それ三味線を踏み折つた、早う逃げ怪我をしたらどもならん、子供を負ふて遣り、それはお爺やんや、お爺やんを逆様に負ふて頭痛病になるがな」

「さかさまいの……」

「オイ、二輪加をしいないな、早う逃げ」

「オイ早う逃げ、これや依つてに源八へ行こと言ふたのに、櫻の宮へ行こと言ふて來たら、此様な騒動が出来たんや」

「私等まだ何も食ふてへんがな、盃に酒を注ぐなりや、是でも同じ割前か」

「そんな汚い事を言ふてる場合やない」
大勢はバラ／＼逃げ出しましたが、可愛相に鳥居前に店を出して居た親爺、餅を引くり返されて破れた鉢を持って、誰方も御免やす、先刻の侍ひ、ブラ／＼と参りますと、大勢の人が駆け出しますので、

「中村氏、何か、大勢が騒ぐ、何事であらう、コリヤ／＼町人、大勢が馳けるは何事ぢや」